

再評価結果（平成26年度事業継続箇所）

担当課：道路局国道・防災課

担当課長名：茅野 牧夫

事業名 一般国道10号 <small>かどがわひゆうが</small> 門川日向拡幅	事業区分 一般国道	事業主体 国土交通省 九州地方整備局	
起終点 自：宮崎県東臼杵郡門川町大字加草 <small>ひがしうすきぐんかどがわちようおおあざかくさ</small> 至：宮崎県日向市平岩 <small>ひゆうがしひらいわ</small>	延長 12.8km		
事業概要 門川日向拡幅は、国道10号の交通渋滞や交通安全性の課題の解消及び高速ICへのアクセス向上等を図り、沿線地域の発展に貢献する事業である。			
S45年度事業化	H8年度都市計画決定 (H20年度変更)	H12年度用地着手	
		H14年度工事着手	
全体事業費	約314億円	事業進捗率	
		約84%	
		供用済延長	
		10.5km	
計画交通量 13,600～34,500台/日			
費用対効果分析結果	B/C (事業全体) 4.2 (残事業) 2.7	総費用 (残事業/事業全体) 41/683億円 (事業費：35/603億円) (維持管理費：5.8/80億円)	総便益 (残事業/事業全体) 109/2,894億円 (走行時間短縮便益：98/2,618億円) (走行経費減少便益：6.8/172億円) (交通事故減少便益：3.8/103億円)
			基準年 平成25年
感度分析の結果 【事業全体】交通量：B/C=4.2～4.3 (交通量 ±10%) 事業費：B/C=4.2～4.3 (事業費 ±10%) 事業期間：B/C=4.2～4.2 (事業期間±20%)			
【残事業】交通量：B/C=2.7～2.8 (交通量 ±10%) 事業費：B/C=2.5～3.0 (事業費 ±10%) 事業期間：B/C=2.5～2.8 (事業期間±20%)			
事業の効果等			
①交通混雑の緩和 ・国道10号の交通混雑の緩和や走行性の向上			
②交通安全性の向上 ・交通死傷事故発生件数の減少			
③歩行空間の安全性・快適性向上 ・広歩道の整備により歩行者・自転車の安全性が向上 ・バリアフリー化により沿道景観と快適性が向上			
④地域間の交流・連携・物流効率化の支援 ・東九州自動車道へのアクセス向上により、港湾物流の効率化を支援			
⑤中心市街地活性化の支援 ・中心市街地へのアクセス向上			
⑥地域開発の支援 ・交通の円滑化により土地区画整理事業など周辺開発を支援			
関係する地方公共団体等の意見 延岡市をはじめとする2市1町の首長、議会議長で構成される国道10号整備促進期成会（会長：延岡市長）等により早期整備の要望を受けている。（平成25年9月）			
県の意見 国道10号門川日向拡幅につきましては、これまで全延長12.8kmのうち約10.5kmが供用され、交通混雑の緩和や交通安全性の向上などに一定の効果が現れているところです。また、本年度中には0.8kmが新たに供用される予定と伺っており、着実に進捗しているものと考えております。当該事業につきましては、地元自治体からも強い要望がなされているところであり、「対応方針（原案）」案の「継続」に異論はなく、残る1.5kmの区間につきましても、早期に供用予定時期を示した上で、より一層の整備推進をお願いします。			
事業評価監視委員会の意見			

審議の結果、事業継続。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

沿線地域の人口は、同程度で推移しているが、一世帯あたりの自動車保有台数は県平均・九州全体よりも高い。国道10号の交通量は近年増加し、混雑度は約1.9である。

事業の進捗状況、残事業の内容等

平成24年度末の事業進捗率は約84%であり、そのうち用地進捗率は約59%となっている。

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

地元や関係機関との協力体制のもと、今後も引き続き残工事等の事業進捗を図っていく。

・木原交差点～赤岩川 L=0.8km(4/4)：平成25年度供用予定

施設の構造や工法の変更等

施設の構造や施工等に変更はないが、新技術・新工法の積極的な活用及び建設副産物対策により、着実なコスト縮減に努める。

対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

以上、事業の効果及び進捗状況、事業評価監視委員会における審議、地方公共団体等の意見を踏まえると、事業の必要性、重要性は高いと考えられる。

事業概要図



※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。
※総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。